

# 「高すぎる やった 国民健康保険料」が 引き下げに

市民の切実な要望が実現



京都市は2月4日、2015年度の国民健康保険料引き下げを提案しました。制度発足以来はじめて、医療分、後期高齢者支援分、介護分の保険料率をすべて引き下げるもの。年間1人あたり平均2,532円、1世帯あたり平均5,939円の引き下げで、保険料の5割軽減、2割軽減の対象者も拡大されます。

高すぎる国民健康保険料の引き下げは、長年にわたる市民の願い。党議員団も市民とともに、繰り返しその実現を求めてきました。9割以上の被保険者の負担軽減は、その願いに応えるものであり、国保料引き下げを求める市民の運動と議会論戦の成果です。

京都市が示した保険料の例(40～64歳 2人世帯モデル)

総所得金額	2014年度(円)	2015年度(案)(円)	差(円)
0円(7割軽減)	35,346	34,452	▲894
100万円(2割軽減)	192,606	185,052	▲7,554
200万円	362,970	347,120	▲15,850
300万円	509,770	486,220	▲23,550
400万円	656,570	625,320	▲31,250
500万円	790,990	764,420	▲26,570

自民、民主・都みらい、公明、京都党の「オール与党」は、「国民健康保険料の引き下げを求める請願」に反対しました。  
(2012年2月市会)

## 1世帯1万円以上の引き下げを 国保の都道府県単位化の中止を

国保の都道府県単位化を前提とした国の特別の財政支援は約18億円。それによって生まれた14億円のうち7億円を引き下げに使われました。しかし、市民生活のきびしい実態からは、いっそうの引き下げが必要です。

日本共産党議員団は、更なる国保料引き下げ実現と保険証取り上げの中止、国保料の引き上げをもたらす国民健康保険の都道府県単位化の中止に、みなさんとご一緒に取り組みます。



2月3日、「いのちの署名」を市長に提出



「敬老乗車証を守ろう」署名提出行動（2月6日）

2015年度

# 敬老乗車証の 継続を表明

## 改悪方針を撤回させましょう

2月6日の第5次の署名提出の場で、京都市の担当者は「今年9月の更新は、現行制度で継続する」と明言。来年9月まで、現行のままで制度が継続されることになりました。

京都市は、敬老乗車証のICカード化とあわせ、制度を改悪しようとしています。引き続き、現行の制度が守られるよう、みなさんと一緒にがんばります。

京都市は、敬老乗車証制度を乗るたびに100円程度を払う「応益負担」の仕組みに変えようとしています。

これに対し「乗るたびに負担は困ります」「敬老乗車証は市民の宝。これまで通り使えるように」と市民の運動が広がり、署名は1万6900筆に達しています。

自民、民主・都みらい、公明、京都党の「オール与党」は、「敬老乗車証制度見直し・改悪」の大もとにある「京（みやこ）プラン」実施計画に賛成し、これを推進してきました。

## 地下鉄烏丸御池駅に **やった** 可動式ホーム柵が実現

7年来の市民の運動と党議員団の100回を超える議会論戦が実り、昨年12月、地下鉄烏丸線の烏丸御池駅に可動式ホーム柵が実現しました。2015年度には、四条駅・京都駅にもホーム柵が設置されます。



烏丸御池駅の可動式ホーム柵

京都党の議員は「年間100人が死んだのならとんでもないが…今でも十分安全」「やりすぎ」などと議会で質問。可動式ホーム柵設置に反対してきました。